



自己点検・評価報告書

(令和5年度)

令和6年6月

本学は、令和3年度に一般財団法人大学・短期大学基準協会による認証評価を受審し、令和4年3月11日付で適格と認定されました。高等教育機関としての社会的責任を果たすため、引き続き全学的に点検・評価活動に取り組み、教育・研究の更なる充実に取り組んでいます。この点検・評価活動を推進するため、次の学内組織において、PDCAサイクルを用いた改善シートを作成し、業務及び活動の恒常的な検証を試みています。

- ・ こども学科
- ・ 豊岡事業部 総務課
- ・ 豊岡事業部 管理課
- ・ 豊岡事業部 経理・財務課
- ・ 教学部 教務学生課
- ・ 教学部 図書館事務課
- ・ 教学部 通信教育事務課
- ・ 自己点検・評価委員会
- ・ カリキュラム等検討委員会
- ・ 学務委員会
- ・ 入試対策・学生募集委員会
- ・ 教務委員会
- ・ 教育改善実施（FD）委員会
- ・ 個人情報保護委員会
- ・ 学生指導委員会
- ・ 進路指導・編入委員会
- ・ 研究倫理委員会
- ・ 図書委員会
- ・ 公開講座委員会
- ・ 紀要委員会
- ・ こども学科実習委員会
- ・ 職務改善・推進（SD）委員会
- ・ 地域交流委員会
- ・ 教育情報公開運営委員会
- ・ 食堂運営委員会
- ・ 奨学生委員会
- ・ 防火・防災管理委員会
- ・ ハラスメント防止委員会
- ・ 衛生委員会

自己点検・評価委員会が、認証評価の結果及び本学の中長期計画を踏まえた自己点検・評価活動により、これらの学内組織の改善シートを検証した上で、教授会で審議しています。この PDCA サイクルによる改善シートを検証し、学内組織が活動することにより、一貫した方針に基づいた点検・評価が可能な体制を構築しています。

また、「学習成果及び教育効果の検証に関する方針（アセスメントポリシー）」に基づき、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーのそれぞれに照らして、学習成果・教育効果の検証を行っています。

これらの PDCA サイクルによる活動成果、各基準に則った課題の検証及びアセスメントポリシーに基づく学習成果・教育効果の検証結果を本学の自己点検・評価報告書としています。

基準 I 建学の精神と教育の効果

令和 3 年度認証評価受審に伴う報告書の本基準における今後の改善計画は、次の通りです。

本学の教育目標及び学習成果は、社会的通用性があると判断しているが、今後も社会に役立つ人材、ステークホルダーが求める人材を養成するため、社会が求める教育を実施できているか点検を継続する必要がある。そのため、就職先へのアンケート調査、学生の実習受入先との実習情報交換会を実施し、地域社会の意見に基づく教育目標及び学習成果等の検証を行い、必要に応じて改善していく。

GPA 制度の導入やカリキュラムマップを基にしたカリキュラムツリーの整理、アセスメントポリシーの策定等、学生にとっても教職員にとっても、学習成果をより正確に把握する仕組みを整備している。これらは、学習成果を把握するためのツールであると同時に、自己点検・評価活動を推進するためのツールである。すなわち、各部署及び各委員会の PDCA 活動、教員による授業改善の PDCA 活動に、これらの新たなツールを追加し、内部質保証を推進していくことが必要である。そのために、それぞれのカリキュラムマップやアセスメントポリシーなどのツール自体を改善していかなければならない。また、それぞれのツールを扱う教職員の意識・知識も絶えずアップデートしていく必要がある。今後も、本学が社会的使命を果たしていくために、学長のリーダーシップのもと、自己点検・評価委員会が中心となってこれまで以上に組織としての改善活動を実施していく。

この改善計画に基づく、学内組織の PDCA による検証は、次の通りです。

改善・見直しを図る事項	改善・見直しの結果
①「建学の精神」と「教育目標」の実現に向けて、カリキュラムの見直し等により教育内容の充実を図る。	①「建学の精神」と「教育目標」の実現に向けて、カリキュラムの見直し等により「弘徳豊岡教育」を中心に据えて教育内容の充実を図った。
②就職先へのアンケート調査、学生の実習受入先との実習情報交換会を実施し、地域社会の意見に基づく教育目標及び学習成果等により検証するとともに、アセスメントポリシー自体の適切性を検証する。	②実習先との情報交換会や GPA に基づき本学の 3 つのポリシーや学習成果の検証を行ったが、アセスメントポリシー自体の適切性の検証ができなかった。

改善・見直しを図る事項	改善・見直しの結果
③カリキュラムマップ、カリキュラムツリーやアセスメントポリシーを再周知するとともに、その役割と意味合いに関する研修を検討する。	③カリキュラムマップ、カリキュラムツリーやアセスメントポリシーを教職員に再周知し、その役割と意味合いに関する研修を行った。
④各部署・委員会のPDCAサイクルによる業務改善シートを確認・検証する。	④各部署・委員会のPDCAサイクルによる業務改善シートを基に、学校法人の中長期計画、本学の自己点検・評価報告書との連動性を確認・検証し、一部の部署・委員会に計画の見直しを依頼した。
⑤今年度実施予定の就職先アンケート調査結果等をアセスメントポリシーに基づき取りまとめることにより、新教育課程の学習成果、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーの各科目の関連性を検証する。	⑤アンケート調査結果等や短期大学生調査をアセスメントポリシーに基づき取りまとめ、教育課程の学習成果、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーの各科目の関連性の検証を行った。
⑥GPAに対する学生の理解促進、またGPAの学生指導への活用促進を行う。	⑥GPAに関してオリエンテーションにおいて説明し、また学生指導にも活かすことができた。
⑦カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーの活用について検討する。	⑦カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーを学生便覧に掲載し、またシラバスには各科目と学習成果との対応を明記するなど、活用ができた。
⑧教職課程自己点検評価報告書の作成を行い、ホームページにて公表を行う。	⑧自己点検・評価委員会が中心となり、教職課程自己点検評価報告書を作成し、本学ホームページに公表した。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

令和 3 年度認証評価受審に伴う報告書の本基準における今後の改善計画は、次の通りです。

学習成果の点検は、平成 31 年度から本学における教育課程を大幅に変更したため、就職先へのアンケート調査結果等をアセスメントポリシーに基づき取りまとめることにより、新教育課程の学習成果、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーの各科目の関連性を検証していく。また、教育課程をより体系的に示す指標として、ナンバリングを授業概要（シラバス）に整備する。

成績評価は、授業概要（シラバス）において成績評価の基準を示した上で、それぞれ第 1 回目の講義で科目担当者が説明しており、十分に客観性・公平性を確保している。通信教育部がすでに導入しているルーブリック評価は、「何が評価されているのか」の評価の基準と「意欲・態度、思考力・表現力、知識・技能の獲得度合等」の基準を明示する仕組みであり、公平性・客観性及び厳格性をより担保できる。このルーブリック評価の導入を通学部でも検討する。

コロナ禍のため、通常の学生支援が制約を受ける中で、さまざまな創意工夫をして学生支援を行い、令和 2 年度入学生の退学者は 0 人であった。このコロナ禍で工夫し実践した取り組みを検証し、コロナ収束後も学内 SNS による定期的な情報発信等による学生支援を行っていく。

学習上の悩みや適切な指導助言を行う体制をより強化するため、令和 3 年度よりオフィスアワーを設け、授業概要（シラバス）や学内 SNS 等により周知し、学生支援を継続する。今後もオフィスアワーの在り方を含めて、学生が学習上の相談をしやすい環境を検討していく。また、姫路大学が主体となっている食堂・売店やクラブ活動等の学生へのサービス向上のため、姫路キャンパスの学生の声を集約し、姫路大学と協同して対応にあたるよう努める。

この改善計画に基づく、学内組織の PDCA による検証は、次の通りです。

改善・見直しを図る事項	改善・見直しの結果
①オフィスアワーの在り方を含めて、学生が学習上の相談をしやすい環境を検討していく。	①オフィスアワーなど、学生が学習や生活上の相談をしやすい環境作りのため、授業概要（シラバス）へ明示しており、学生とのコミュニケーションを図るよう配慮している。

改善・見直しを図る事項	改善・見直しの結果
②ルーブリック評価表の活用のあり方について、細部まで検討する。	②教務学生課及びFD委員会において、シラバスに授業態度やレポートの評価ルーブリックを示すことを検討したが、現状の教務システムの仕様上難しいとの結論に至った。ルーブリック評価に関する理解を高め、必要に応じて活用していくことを教員全体に求めていく。
③就職先アンケート調査結果等をアセスメントポリシーに基づき取りまとめることにより、新教育課程の学習成果、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーの各科目の関連性を検証する。	③短期大学生調査や実習情報交換会等をアセスメントポリシーに基づき取りまとめ、教育課程の学習成果、カリキュラムマップ及びカリキュラムツリーにおける各科目との関連性を検証した。その結果としては、関連性が認められると判断した。
④就労意識を高めるためのマナーやコミュニケーション力の向上、人間力、社会力の向上を目指す	④1年生に対し、就職先が決定した2年生から就職活動の取り掛かり方やプロセスについての講話を実施し、2年生には、地域の保育施設園長を招き、社会人力向上セミナーを開催した。また、「弘徳豊岡教育」、「キャリアアップ」を中心としての社会人育成につながるよう指導を行った。
⑤併設の姫路大学と合同となる食堂・売店、クラブ活動等といった内容に関する満足度調査を実施する。	⑤併設姫路大学と合同となる食堂・売店、クラブ活動等といった内容に関する満足度調査の実施ができなかった。
⑥教務システムによる学生への情報発信について、使用ルールを作成し、教職員間で使用方法を周知、徹底する。	⑥学生への情報発信について、使用ルールを作成することができなかった。教職員で共通認識を図る必要がある。
⑦実習先（園・施設・所）との情報交換会を進路指導委員会・編入委員会と連携して実施する。	⑦こども学科実習委員会と進路指導委員会・編入委員会と連携し、情報交換会を開催した。
⑧ポートフォリオの一つである履修カルテの円滑な実施・運営ができるような仕組みを整える。	⑧教務学生課主体で履修カルテの入力マニュアルを作成し、継続的に入力できる体制整備を行った。

改善・見直しを図る事項	改善・見直しの結果
<p>⑨福祉・保育現場の国際化に対応できる実践的なコミュニケーション力の向上に向けて、学科、地域交流委員会と協働して、国際交流事業などの内容を検討し充実を図る。</p>	<p>⑨実践的なコミュニケーション力の向上に向けて、国際交流事業を実施することができた。</p>
<p>⑩通信教育部において、学生の自学自習の一助となるよう、レポートの書き方等を動画にし、アクセスしやすい環境を整備する。</p>	<p>⑩レポート作成における支援動画を教務システムにて公開した。引き続き、さらに具体的な幅広い支援動画作成を行う。</p>

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

令和 3 年度認証評価受審に伴う報告書の本基準における今後の改善計画は、次の通りです。

ライフ・ワークバランス実現のために、総務部総務課や衛生委員会が主体となり、グループウェア「e3office」の電子掲示板を利用して、情報提供により有給休暇取得率の向上を図る。授業、学生指導や委員会活動等の教育活動と研究活動をより高いレベルで両立させるために、2 つの活動の両面を適切に評価できる人事制度、研究活動を推奨する研究費配分や研究活動の時間をさらに確保するための仕組みを検討していく。また、研究倫理は、研究者に求められる基礎的部分であるため、研究倫理委員会による定期的な情報発信や研修会の実施等を検討し、研究倫理を遵守する意識を高める対応を強化する。

全学研修会、各部署による部内研修会や学外研修会等の SD 活動に加えて、大学職員としての資質向上を図る部署を横断する研修会の実施を検討する。

豊岡キャンパスでは、令和 3 年度実施予定の高圧設備修繕工事の第 5 期工事において、電気設備の大規模改修が完了予定であるが、校舎及び校舎内の設備が老朽化している。給排水設備及び空調設備も大規模改修となるため、工期を細分化することにより、単年度の予算計上金額を抑制した上で、計画的な修繕あるいは入替を検討する。

姫路キャンパスの開設及び新型コロナウイルス感染症拡大防止対策によるオンラインの授業や会議が増加していることに伴い、校舎内無線 LAN 化のエリア拡大、オンライン授業配信用教室の整備や情報セキュリティに関する意識の向上等、物的環境及び人的環境を整備していく。

通学部は令和 3 年度に入学定員及び収容定員を充足した。2 年連続で入学定員を充足し、増加しつつある入学志願者に対応するため、令和 4 年度から収容定員増を予定している。これに伴い、さらなる積極的な募集活動により、増加する定員を満たし、収支均衡を目指す。

この改善計画に基づく、学内組織の PDCA による検証は、次の通りです。

改善・見直しを図る事項	改善・見直しの結果
①教育活動と研究活動の両面を適切に評価できる人事制度、研究活動を推奨する研究費配分や研究活動の時間をさらに確保するための仕組みを検討していく。	①教育活動と研究活動の両面を適切に評価できる人事制度、研究活動を推奨する研究費配分や研究活動の時間をさらに確保するための仕組みづくりはできなかった。

改善・見直しを図る事項	改善・見直しの結果
②グループウェア「e3office」の電子掲示板を利用し、労働災害時の対応、健康管理、新型コロナウイルス感染予防についてなど、定期的に周知する。	②グループウェア「e3office」の電子掲示板を利用し、労働災害時の対応、健康管理、新型コロナウイルス感染予防についてなど、定期的に周知した。
③1人5日以上の有給休暇早期取得を達成するため、総務課と連携し、連休・飛び石連休の間に有給休暇を取得する、プラスワン休暇取得等を周知し、有給休暇の取得しやすい環境への改善を図ると共に、グループウェア「e3office」の電子掲示板から情報提供を行い取得率の向上に努める。	③1人5日以上の有給休暇早期取得を達成するため、「e3office」の電子掲示板から情報提供を行い、昨年度より取得率が向上した。対象者全員が取得することができた。
④施設・設備の大規模改修工事について、工期の細分化による単年度予算の計上金額を抑えた計画を立案するとともに、校舎内無線LAN化のエリア拡大工事の計画検討も行う。	④大規模改修工事について、豊岡キャンパス本館 GHP 空調設備改修工事、豊岡キャンパスこうのとり認定こども園における電話機及び電話交換機入替事業を令和6年度当初予算に事業計画として提出した。また、同図書館、食堂、301教室に無線LANの範囲の拡大を行った。
⑤カリキュラムマップ、カリキュラムツリーやアセスメントポリシーを再周知し、日々の授業や業務で意識付けするような教職員研修会を検討する。	⑤カリキュラムマップ、カリキュラムツリーやアセスメントポリシーを再周知し、その役割と意味合いに関する全学研修会を開催した。
⑥高等学校訪問等により、積極的な学生募集活動を展開し、特に新規の高校での認知度を向上する。また、大学案内における内容のさらなる充実を図る。	⑥学生募集は、目標としていた入学者数を確保できた。また、大学案内をブランドイメージは維持しつつ、華やかさや楽しいイメージを追加し、憧れをもたせることを目指した。
⑦教員の研究倫理意識の向上に向けて、適宜、教員への情報発信を行い、研究倫理意識の向上に資する研修会を実施する。	⑦教員への情報発信を行うことはできなかった。

改善・見直しを図る事項	改善・見直しの結果
⑧豊岡キャンパス図書館での「おはなし会」のよりよいあり方を検討し、実施していく。	⑧第1火曜日に「おはなし会」を定例実施し、地域広報誌や、こども園への案内掲載等で周知を行った。
⑨教員の教育・研究レベルの向上に向けて、幼児教育研究所と協働して教育・研究内容報告会を内実とする「学術懇話会」を行う。	⑨教員の教育・研究レベルの向上に向けて、幼児教育研究所と協働して教育・研究内容報告会を内実とする「学術懇話会」を開催することができなかった。
⑩各部署で行われている研修が管理運営マネジメントを意識した業務の効率化・レベルアップを図る内容となっているかを確認し、研修成果を年度末に取りまとめる。また、本学の実情を鑑み、研修計画の検討・策定を行い、総務課へ全学的な教職員階層研修会の実施を依頼する。	⑩各部署で行われている研修が管理運営マネジメントを意識した業務の効率化・レベルアップを図る内容となっているかを確認し、研修成果を年度末に取りまとめた。また、本学の実情を鑑み、研修計画を検討・策定を行い、「建学の精神と教育目標」について全学研修会を開催し、教職員全員の参加を達成した。同様に委員会主催のハラスメントに関する研修に教職員全員が参加した。全学での教職員階層別研修会については実施を見送った。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

令和 3 年度認証評価受審に伴う報告書の本基準における今後の改善計画は、次の通りです。

本学は姫路キャンパスの設置に伴い、2 つのキャンパスを円滑に運営することが必要なため、オンライン会議を積極的に活用することにより委員会活動を活発化するなど、学長のリーダーシップのもと、教職協働を強化していく。

評議員会の多種・多様な意見を基に、理事会により意思決定することが重要である。理事会及び評議員会の実出席率を向上させ、より活発な会議とするため、理事及び評議員に積極的な出席を促していく。

この改善計画に基づく、学内組織の PDCA による検証は、次の通りです。

この基準に関しては、自己点検・評価委員会により、令和 5 年度の状況について、次の通り検証した。

・学長は、豊岡・姫路キャンパスがそれぞれ円滑に運営できるように、各委員会の実施に関して、引き続きオンライン会議による実施を推奨した。これにより、委員会活動を促し、教育活動・研究活動で教職協働により改善を図っている。

・理事長は、理事会と評議員会が建設的に協力し、活発な議論の場となるよう努めた。また、担当理事制度に基づく権限と責任の明確化を通じて、ガバナンスの強化に努めていく。

まとめ

本学は全学的に点検・評価活動に取り組み、教育・研究の更なる充実に取り組むため、学内の各部署・委員会において PDCA サイクルを用いた改善シートを作成している。教授会及び自己点検・評価委員会が、業務改善シートを検証することにより、一貫した方針に基づいた点検・評価を実施している。

また、「学習成果及び教育効果の検証に関する方針（アセスメントポリシー）」に基づき、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーのそれぞれに照らして、学習成果及び教育効果の検証を行った。この検証の結果、令和 5 年度の学習効果及び教育効果は、改善すべき事項もあるが、適当と判断している。なお、建学の精神、教育目標、三つの方針と学習成果は直結しており、学習成果の点検活動を通して、建学の精神も確認している。

アセスメントポリシーに基づく検証及び令和 5 年度の課題に則った各部署・委員会の活動状況を点検・評価した結果、令和 5 年度の本学の教育・研究活動は適切に実施していると判断している。しかしながら、解決した課題がある一方で、令和 6 年度に向けて改善が必要な事項もあるため、引き続き担当部署・委員会がそれぞれの課題解決に向けて取り組み、本学の教育・研究活動の改善を図っていく。

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証 **アドミッションポリシー**

		アドミッションポリシー	
		資料	結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①各種入学選 抜	<p>入学生の評定平均値の平均は 3.84 点（標準偏差 0.50、最高値 5.0、最低値 3.1）、小論文試験の平均点は 76.78 点（標準偏差 6.70、最高点 92、最低点 66）、面接試験の平均点は 77.19 点（標準偏差 7.13、最高点 98、最低点 68）であった。</p> <p>今年度は、アドミッションポリシーに合致する学生を募集することができたといえる。</p>	
	②学生調査	<p>短期大学生調査から、本学が第一志望であった割合が 93%（全国平均 88%）であった。また、本学に進学を決める際に重視した点として、「就職するのに必要な資格が取れる」の項目に 93%が「重視した、やや重視した」と回答している（全国平均 88%）。</p> <p>専門職として、社会で活躍するという高いモチベーションを持った学生が入学していることが伺える。</p>	
教 育 課 程 レ ベ ル	③各種入学選 抜	<p>本学は単学科となるため、機関レベルと同一となる。</p>	
科 目 レ ベ ル	④入学前課題 の確認試験	<p>2023 年度入学生の一般教養テスト結果を 2021 年度（いずれも 65 点満点）と比較すると、平均点は豊岡キャンパスで 25.95 点、姫路キャンパスで 25.64 点であり、例年と同程度であった。このことから、入学生の学力は一定程度維持できていると考えられる。学力面で平均よりも遅れを取っている学生に対しては、学習上の支援が必要となる可能性がある。</p>	

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証 **カリキュラムポリシー**

		カリキュラムポリシー	
		資料	結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①退学状況		・令和4年度 入学41名 退学2名、休学0名
	②休学状況		・令和5年度 入学34名 退学0名、休学0名 退学者数は入学生数に対して低い水準にとどまっており、教育・学生支援の成果が見られる。
	③短期大学生調査		<p>・学習意欲、学修行動に関する項目</p> <p>「Q11 あなたが受講した授業では、次のようなことはどのくらいありましたか。」の質問項目は、4件法（よくあった、ときどきあった、あまりなかった、まったくなかった）で調査を行った。「よくあった」及び「ときどきあった」を合算した割合（以後、「あった」と表現）が、全国平均と10ポイント以上乖離しているものについて次に取り上げる。</p> <p>「体験的な学習（実習、実験、フィールドワーク）」は、「あった」と回答した学生の割合が90%（全国平均79%）であった。1年次から授業としてキャリアアップにおけるインターンシップ等の取組みがあるため、高くなっていると考えられる。その他、「正解や答えのない問題や課題について考える」の項目は77%（全国平均66%）、「授業をつまらなく感じた」の項目は54%（全国平均64%）、「授業に遅刻や欠席をした」の項目は34%（全国平均45%）であった。</p> <p>こども学科としては、より魅力的なカリキュラムの整備、また各教員はより魅力ある授業の実施に日頃から努めているため、上記の項目に関しては、成果が表れていると考えられる。学生も、全国平均に比べて遅刻や欠席が少なく、授業を大切にする姿勢が比較的保たれている。</p> <p>一方で、「プレゼンテーションをする」は、「あった」と回答した学生の割合が54%（全国平均65%）であった。この結果は直ちにネガティブなものとも限らないが、授業実施方法のバリエーションとして、プレゼン形式での発表は、全国平均と比較すると行われていない傾向にあることが読み取れる。継続的なFD活動により、各教員が様々な方法を模索していくことが望ましい。</p> <p>・成長実感に関する項目</p> <p>「Q19 今の短大に入学して、あなたの能力や知識ほどの程度変化（向上）しましたか。」の質問項目は、5件法（大きく増えた、増えた、変わっていない、減った、大きく減った）で調査が行われている。「大きく増えた」及び「増えた」を合算した割合（以後、「成長実感がある」と表現）が、全国平均と10ポ</p>

		<p>イント以上乖離しているものについて次に取り上げる。</p> <p>「一般的な教養」の項目は、成長実感がある学生の割合は、84%（全国平均 75%）であった。また、「他の人と協力する力」86%（全国平均 77%）、挑戦する力（チャレンジ精神）72%（全国平均 61%）であった。</p> <p>「地域や社会に貢献する意欲」の項目は、成長実感がある学生の割合は 64%（全国平均 51%）であった。地域ボランティアの授業や地域交流活動が奏功していると考えられる。</p> <p>「プレゼンテーションをする力」の項目は、成長実感がある学生の割合は 39%（全国平均 53%）であった。「PC など情報機器を使う力」の項目は、成長実感がある学生の割合は 50%（全国平均 68%）であった。PC に関しては、今年度から情報リテラシーの授業を前期開講としており、次回の短期大学生調査にはその結果が反映できると考えている。</p>
	④ 学生満足度調査・学修行動調査	<p>本学が実施する学修行動調査において、「授業の予習時間」の項目で「全くしていない」、「ほとんどしていない」を選択した学生は 52%（R4 は 60%）、「授業の復習時間」の項目では「全くしていない」、「ほとんどしていない」を選択した学生は 16%（R4 は 17%）であり、復習中心の学習習慣となっていることが読みとれる。学習は、予習・授業・復習をバランスよく行うことが望ましく、適切な予習課題の設定を教員に求めていく必要があると考えられる。</p> <p>また、「勉学や進路など、学生生活について教員や職員に相談する」の項目では、「まったくない」、「ほとんどない」を選択した学生が 45%（R4 は 67%）となっており、昨年度より改善が見られるが、引き続きオフィスアワーの運用や周知について検討する必要があると考えられる。</p> <p>なお、これらのことは令和 5 年 9 月の教授会において教務学生課から報告があった。</p>
教育課程レベル	⑤ GPA	<p>GPA は平均が 2.51（中央値 2.65、最大値 3.56、最小値 0.95、標準偏差 0.65）、3.5 以上が 2 名、3 以上 3.5 未満が 7 名、2.5 以上 3 未満が 11 名、2 以上 2.5 未満 7 名、1.5 以上 2 未満が 3 名、1.5 未満 4 名であり、このことから、学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。</p> <p>手厚い学生支援・指導の対象となる 1.5（目指す学習成果の獲得基準）以下の学生は、4 名（11.8%）であった。</p>
	⑥ 単位習得状況	<p>目的に合わせた最適な算出方法を検討しており、今回は除外する。</p>
	⑦ カリキュラムマップに基づく学習成果別評価	<p>本学の学習成果として、専門的学習成果と教養的学習成果を定めており、それぞれの割合は以下の通りである。</p> <p>教養的学習成果において、GPA 平均 2.0 以上の評価を受けている学生の割合は、①91%、②73%であった。</p> <p>専門的学習成果において、GPA 平均 2.0 以上の評価を受けている学生の割</p>

		<p>合は、①89%、②72%、③88%、④71%であった。</p> <p>このことから、1年間の学びにおいて、学習成果の獲得が進んでいると判断できる。</p>
	⑧成績評価	目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。
	⑨欠席状況	1年生では各科目の出席率の平均が95.5%、2年生では90.0%であった。
科目レベル	⑩授業評価アンケート	<p>令和5年度の前期・後期の授業評価アンケートにおいて、各質問項目に対する回答の平均値は、前期・後期を通していずれも4点前後であり、良好な結果であるといえる。また、「質問16 この授業を、マナーを守って受講しましたか。(居眠り、飲食、携帯電話の使用、私語等)」に関しては、前期4.38、後期4.40と特に高い評価となっており、学習環境として良好な状態を維持できている。</p> <p>また、「予習・復習」の項目に関しては、前期3.65、後期3.81となっており、全項目中最も低い平均点となっている。ただし、「質問15 この授業で与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組みましたか。」に関しては前期4.36、後期4.31となっている。これらの数値は昨年度と大きな変化はなく、真面目に授業に向き合っているが、自発的な予習・復習というよりも、課題を通しての授業外学習が中心となっていることが読み取れ、今後学生の主体的な学習を一層促進していく必要がある。</p>

アセスメントポリシーによる学修成果及び教育効果の検証 **ディプロマポリシー**

		ディプロマポリシー
		結果と解釈
資料		
機 関 レ ベ ル	①卒業率	卒業生 40 名 (R4 年度入学 41 名、R3 年度入学 1 名、退学 2 名)
	②学位授与数	卒業率：95.2% (小数点第 2 位四捨五入) 学位授与数：40 名
	③就職率	就職率：94.3% (就職希望者 35 名中 33 名)
	④専門職率	専門職率：91.2% (公務員 6 名、私立保育園・幼稚園・こども園 20 名、 福祉施設 5 名、一般企業 3 名)
	⑤進学状況	進学状況：4 年制大学 3 年次編入者 3 名 専門職を中心とした就職状況は良好であり、一般企業等への就職は例年並みであった。
	⑥卒業時アンケート	卒業前の 1 月に、2 年間の大学の進路指導のアンケートを実施している。 進路決定において、「教員からのアドバイス」が突出して高く、次に「実習園の園長・先生」が続くが、大学が進路指導の一環として実施する「進路ガイダンス」や「先輩からの講演」などの評価も高かった。大学教員のアドバイスや進路ガイダンス等が進路決定において役に立っているという学生の評価は、令和 5 年度、様々な進路指導の工夫や改善を行った結果であると考えている。 アンケート結果は、大学の進路指導全般に対する満足度が高く、令和 6 年度に向けても進路ガイダンス等の在り方や教員同士の情報共有による学生に対する進路指導の強化などについて検証し、さらなる改善を図っていきたい。
	⑦勤務状況調査	令和 5 年度は勤務状況調査を実施していない。 学生が卒業後の 1 年目、6 月から 8 月にかけて就職先を訪問し、園長・施設長等と面談し、聞き取りを行った。本学の取組を高く評価してもらっているコメントや、期待を込めて建設的に書いてもらったコメントを多く受けた。 また、令和 4 年度は 3 年ごとに実施している就職先アンケートの実施年であった。就職先全ての園・施設・企業等から回答を得ているわけではないが、総じて肯定的な評価を受けており、離職率は 6.7% 程度であった。保育・施設分野に限った離職率の資料はないが、短大を卒業して 3 年後の離職率が直近の調査で全国平均が約 43% であったことを考えると、本学の卒業生は十分健闘しているといえる。 引き続き、本学の特徴である個々の学生に対する懇切丁寧な指導を行うこと

		<p>が、本学の信頼をより一層高めることになると考える。</p> <p>ディプロマポリシーについて、特に変更等の必要性を示す明確なデータはない。</p>
教育課程レベル	⑧GPA	<p>卒業生 40 名の GPA は平均が 2.33 (中央値 2.38、最高値 3.59、最小値 1.17、標準偏差 0.57)、3.0 以上が 6 名、2.5 以上 3.0 未満が 12 名、2.0 以上 2.5 未満 9 名、1.5 以上 2.0 未満が 9 名、1.5 未満 4.0 名であり、学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。</p> <p>手厚い学生支援・指導の対象となる 1.5 (目指す学習成果の獲得基準) 以下の学生は、4 名 (10.0%) であった。</p>
	⑨資格・免許取得状況	<p>資格・免許の取得状況は、保育士資格 35 名 (87.5%)、幼稚園教諭二種免許状 38 名 (95.0%) であった。9 割前後の学生が資格・免許を取得して卒業している。</p>
	⑩単位習得状況	<p>目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。</p>
	⑪カリキュラムマップに基づく学習成果別評価(参考)	<p>本学の学習成果として、専門的学習成果と教養的学習成果を定めており、それぞれの割合は以下の通りである。</p> <p>教養的学習成果において、GPA 平均 2.0 以上の評価を受けている学生の割合は、①86%、②75%であった。</p> <p>専門的学習成果において、GPA 平均 2.0 以上の評価を受けている学生の割合は、①84%、②80%、③81%、④72%であった。</p> <p>このことから、1 年間の学びにおいて、学習成果の獲得が進んでいると判断できる。2 年間の学びの中で、6 つ全ての学習成果を獲得し、ディプロマポリシーに合致した人材育成が達せられていると判断できる。</p>